



「BURIRAM UNITED SUPER GT RACE」

チャン インターナショナル サーキット(タイ)

第7戦

10/4(土)予選
10/5(日)決勝

優勝争いに絡む、積極的なレース展開

秋の気配漂う日本を離れ、SUPER GT 第7戦は常夏の国タイ・プリーラムにある「チャン インターナショナル サーキット」で開催。8月に完成したばかりのサーキットで、SUPER GT初開催となる今大会には7万5千人もの観客が詰めかけ、「Made in Japan」のレースに酔いしれた。

【予選】
重量ハンデを受け、13位から厳しいスタート
今大会から各車向に課せられたウェイトハンデが半減される新ルールのもとで行われた第7戦。しかし、シリーズ2位のKeePer TOM'S RC F(37号車)はもう一つのハンデである燃料リストラクターが残ったまま。依然として厳しい状況が続く中、金曜日午後のフリー走行から土曜日の予選まで土日に食い込むことができず、13番グリッドから決勝レースに臨むこととなった。

【決勝前半】
混戦を抜け出し、一気に3位へ浮上
薄い雲に覆われた日も、何とかドライコンディションを保った状態が始まった決勝レース。スタートドライバのカルダレリはオーピングクラブから2台をかわす上々の滑り出し。5周目には他のマシンのミスについて10位に浮上した。しかし、早い周回から300クラスの仕掛けが始まり、レースは各車両が入り交じる混戦に突入。その影響を受け、一時は14位までポジションを落とすも、徐々に落ち着きを取り戻し、再び順位を上げていく。真新しいサーキットの路面特性とコースレイアウトの影響から抜きどころが少ない中、26周を終えた時点で7位争いのク

ループに迫る勢いを見せる。その後、各マシンのビットインやミスに乗りこえ34周目には3位に浮上。そして39周目、満を持してエースドライバー・伊藤がシートに乗り込む。

【決勝後半】
トップ集団を形成するも、4位でフィニッシュ
一気に優勝争いに加わった37号車は、ドライバーチェンジのタイミングで勝負に出る。抜きどころが少なく、ビットでの作業時間が順位に大きく影響する難コース対策として、あらかじめシミュレーションを行っていた、タイヤ無交換でのレース完走の選択をする。その作戦が見事にはまり、42周目についにトップに躍り出る。その後、レースはライバルGT-R勢の46号車、同じくタイヤ無交換を選択したレクサス36号車との三つ巴の争いに。途中、トラブルが発生した46号車がリタイアし、残り9周の時点でレクサス勢が1、2位を独占。そのままワン・ツーフィニッシュが期待されたが、燃料ハンデなどの影響もあり、37号車は徐々にペースダウン。粘りの走行を続けるも、最終に日産勢に相次いでかわされ4位でフィニッシュ。それでもシリーズランキングでは首位と3ポイント差の2位をキープ。次戦、ノーハンデで臨む最終戦に優勝の命運をかける。

2014 SUPER GT レポート

優勝への望みをつなぐ。シリーズ2位で最終戦へ!

第5戦を終えた時点でシリーズ首位に立つKeePer TOM'S RC F。続く第6戦(鈴鹿)・第7戦(タイ・プリーラム)では重量ハンデの影響もあり、ともに表彰台を逃す悔しい結果に。それでもドライバー・スタッフを含めチーム一丸となって走り抜き、ランキング2位をキープ。ノーハンデで臨む最終戦を前に、優勝への期待は高まる一方だ。



第6戦

「43rd International SUZUKA 1000KM」 鈴鹿サーキット

執念の激走で最後方から7位へ!

8/30(土)予選
8/31(日)決勝

前戦までにシリーズランキング首位に立ち、最重量ハンデで挑んだ難関コースの鈴鹿。最後方スタートながら、最後は7位でフィニッシュ。惜しくも入賞は逃したが、今後の活躍を期待させるレースを見た。

【予選】
最後方から臨む決勝レース
ポイントリーダーとして第6戦を迎えたKeePer TOM'S RC F(37号車)。予選では最重量1000kgのウェイトハンデが響き、14番グリッドという厳しい結果に。しかしリストラクター制限を受けたRC F勢が後方に固まる中、チームメイトの36号車がポールポジションを獲得。シリーズランキング首位獲得へ向け、最初と最後方から1000kgの道のりを走り抜ける。

【決勝前半】
ハイペースで進むレース。サバイバル戦の中を力走。
交通安全運動の一環として、通常のフォーメーションラップの前に三重県警の先導による1周のパレードランを挟んで行われた決勝レース。いつもとは異なるスタートだったが大きな混乱もなく、最後方スタートの37号車は序盤から積極的なレース運びで順位を上げていく。ハイペースで進む展開の中、10周目ほどは37号車が300クラスのマシンを波瀾に追いつく。しかし500クラスのマシンにとってテクニカルな走行が求められる難易度の高い鈴鹿。加えてチャンピオン争いの懸念も簡単なレースとあって300クラスも簡単にポジションを譲らない。いつも増して激しい攻防を見せるレースは、序盤からバンクや突然のスロウダウンでビットに向かうマシンなど波乱を

予感させる幕開けとなった。再びレースが動き出したのは87周目。首位を走る36号車のビットイン直後、入れ替わった17号車が130Rを飛び出しリアを激しく破壊。さらに他のマシンもトラブルも重なり、37号車は7番手に浮上する。さらに、前を走るライバル車の順位如何によってシリーズランキングの逆転を許す可能性があるため、驚異的な追い上げを見せる37号車の猛追は続く。8号車のスロウダウンに乗りこえ、とうとう入賞圏内の6位へ。しかしここで痛恨のアクシデントが発生。ダンロップコナーで起きた300クラスのマシンとの接触がベナルティ判定となり、ビットへ一時帰還を余儀なくされる。その後、コースへ復帰した37号車は、順位を下げたものの力走を見せ、7位でゴール。シリーズ1位の座を23号車に譲るも、その差はわずかに4ポイント。タイ・プリーラムサーキットでの巻き返しを図る。

【決勝後半】
痛恨のベナルティ判定も、7位まで順位を上げる
一方、序盤からトラブルが続出する中で快走を続ける37号車。しかし重量ハンデの影響もあり、その後は20周以上の膠着状態が続く。



2014年度スーパーGT スケジュール

第8戦 ツインリンクもてぎ (栃木県) 公式予選 11/15(土) 決勝 11/16(日)

● スーパーGT 開幕戦の様子がYouTubeでご覧いただけます。

YouTube[開幕戦優勝 キーパー] 検索

「#37 KeePer TOM'S RC F」を応援しよう! 企画 第3弾

11/15(土)・16(日)スーパーGT第8戦 ツインリンクもてぎ (栃木県)
観戦チケット(予選・決勝共通券)をペア10組20名様にプレゼント

キーパーコーティングをご愛顧の多くの皆様をスーパーGTにご招待します! 「KeePer TOM'S RC F」のビット前グラウンドスタンド席を陣取り、そこのキャップで盛り上がりましょう!

この企画に関するお問合せは・・・KeePer技研(株) ☎0120-517-158

GT500 : ドライバーランキング (第7戦終了時点)

順位	チーム	ドライバー	ポイント
1	LEXUS TEAM PETRONAS TOM'S	ジェームス・ロシター	67
2	LEXUS TEAM KeePer TOM'S	伊藤 大輔 / アンドレア・カルダレリ	64
3	NISMO	松田 次生 / ロニー・クインタレリ	61
4	TEAM IMPUL	安田 裕信 / ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ	60